

地域課題に寄り添う民有林支援 国有林の知見・技術を活かして

近畿中国森林管理局滋賀森林管理署
森林技術指導官 竹内秀行

はじめに

私は令和2年度に森林総合管理士の資格を取得し、令和3年度から近畿中国森林管理局滋賀森林管理署で民有林支援担当として勤務しています。民有林行政に関する一定の経験はありましたが、国有林の立場から本格的に民有林支援に取り組むのは初めてであり、支援の進め方について多少の不安を感じていました。当局では、当時近隣の森林管理署と連携してブロック別に活動を行っており、年に4回程度民有林支援担当者による定例会議が開催されていました。会議では取組状況に関する情報交換や、支援に関するアドバイス、研修による知見の共有、技術普及を目的とした現地検討会の共同開催などが行われており、民有林支援業務における実践的な知識と技術の共有の場として機能していました。このような環境のおかげで新任担当者であった私も安心して業務に取り組むことができました。

民有林支援の取組

当局では、特定の市町に対して個別に支援を行っていたものの、広く地域全体の課題を把握する取組は十分に行われていませんでした。そこで、県や市町から聞き取りを行い、地域の課題把握に努めました。県全体の大きな課題は、県内の森林資源が成熟期を迎える中で、主伐とその後

の再造林を計画的に進めていくことにあります。しかし、近年の材価の低迷や再造林コストの高さに加え、県内の森林は急傾斜地や軟弱地盤が多く、また撤出の基盤となる林業専用道などの路網整備も不十分となっていま

す。こうした課題を一朝一夕に解決するのは難しいですが、国有林の持つ技術やスケールメリットを活かして対応を進めていきます。具体的には、県外の国有林で実施されている急傾斜地でも対応可能な架線集材

の視察研修を行ったほか、国有林で整備している林業専用道の設計技術や作業現場での研修会などを実施しました。また、再造林の低コスト化を図るため、国有林で取り組んでいる主伐再造林の一貫作業や低密度



林業専用道研修



架線集材研修(三重県)



伊吹山とICT囲いわな



小林式誘引捕獲法(くくりわな)講習会



ドローン講習会



ICT講習会(地上レーザ計測機器)

植栽、低コスト防護柵の設置技術などに関する研修会を通じて技術普及にも努めています。

さらに、シカによる被害も農林業にとって深刻な問題となっています。滋賀県内で最も標高が高く、貴重な植物が多く生育する米原市の伊吹山では、シカの被害により植生が失われ、土砂崩壊が発生し、麓の人家にまで土砂流出の被害が及んでいます。当署では、伊吹山への対応として、ドローンによる被害調査やICT囲いわなの貸与及び設置補助、当局職員が考案した「小林式誘引捕獲法(くくりわな)」の設置指導な

どを通じて対策を進めています。

また、市町への個別の支援も継続しています。市町の課題の一つとして、森林経営管理制度の推進など多様な業務への対応が求められる中で、マンパワー不足が挙げられます。人員が限られていることや、森林・林業の実務経験の少ない職員が多いことから、十分な対応が難しい状況となっています。そこで、国・有林の作業現場の見学などを通じて、森林・林業に関する知識醸成を図る取組を行っています。さらに近年はICTの発展に伴い、ドローンや地上レーザ計測機器を用いた森林調査に対する

関心や要望が高まっています。こうしたニーズに応えるため、実習や体験を取り入れた講習会を実施し、活用方法についての理解を深める取組を行っています。

その他、地域の森林の施業や集約化を進める上で、大きな課題となっているのが「境界の明確化」です。地上からの調査では年間約50ha程度の進捗にとどまっていますが、近年は航空レーザ計測による森林解析技術の活用により境界の明確化を進める動きが見られます。当署においても、令和6年度から航空レーザ森林解析を実施しており、その成果を森林管理や境界明確化など

に活用できるよう検討を進めていきます。



今後とも、森林総合管理士として研鑽を重ねながら、地域の課題に寄り添った民有林支援を行い、国有林の知見と技術を活かして、地域の森林・林業の発展に貢献してまいります。

